

<研究ノート>

キャリア形成支援教材『エピソードとタスクから描く
私のキャリアプラン』の設計と特徴
ータスクとプロジェクトに焦点を当ててー

**The Design and Characteristics of the Career Development Support Teaching
Material “Envisioning My Career Plan through Episodes and Tasks”
with a Focus on Tasks and Projects**

中井陽子・菅長理恵・伊集院郁子

東京外国語大学大学院国際日本学研究院

渋谷博子

クリエイティブ日本語学校

NAKAI Yoko, SUGANAGA Rie, IJUIN Ikuko

Institute of Japan Studies, Tokyo University of Foreign Studies

SHIBUYA Hiroko

Creative Japanese Language School

はじめに

1. 先行研究

- 1.1. キャリア形成支援教材開発のための基礎調査
- 1.2. タスクとは
- 1.3. プロジェクトとは

2. キャリア形成支援のための教材設計

3. タスクの設計と特徴

- 3.1. タスクの設計
 - 3.1.1. コミュニケーションタスク
 - 3.1.2. キャリアタスク
 - 3.1.3. ソーシャルタスク
- 3.2. タスクの特徴および期待される効果・留意点

4. プロジェクトの設計と特徴

- 4.1. プロジェクトの設計
- 4.2. プロジェクトの特徴および期待される効果・留意点

おわりに

キーワード：キャリア形成支援、留学生、タスク、プロジェクト、国際共修

Keywords: career development support, international students, tasks, projects, intercultural collaborative learning



本稿の著作権は著者が所持し、クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

要旨

本稿では、筆者らが開発したキャリア形成支援のための教材について、タスクとプロジェクトの設計およびその特徴に焦点を当てて報告する。本教材は、元留学生の体験談をまとめた読み物教材および体験談からの学びを発展させるためのタスクとプロジェクトから成り、課題発見・解決能力や人間関係構築力を養うことを目的としている。タスクとプロジェクトは、グローバル社会での身の処し方についての議論や体験を通し、様々な場面で臨機応変に対応するための知識やスキル、思考力を高めることを目指しており、異文化間コミュニケーション、キャリアプラン作成、自己PR、人間関係構築のための会話の話題と態度などを取り上げている。

本稿では、これらの教材が、先行研究におけるタスクとプロジェクトの枠組みの中でどのように位置付けられるかを明らかにし、本教材の特徴と期待される効果、留意点を検討することにより、今後のキャリア形成支援のための教材作成・実践に生かすことを目指した。

Abstract

In this paper, we report on the teaching materials related to career development support that the authors developed, focusing on the design and characteristics of the tasks and projects involved. The object of the material is to help students develop the ability to identify and solve problems and to build relationships. The materials consist of readings that summarize the experiences of former international students as well as tasks and projects for developing learning from the reading materials. The tasks and projects were designed so that through discussions of how to conduct oneself in global society, and through experiences in that regard, students can improve their knowledge, skills, and cognitive abilities so that they can respond flexibly to changing situations. The themes covered in the materials include intercultural communication, career planning, self-promotion, conversation topics and attitude for developing human relationships, etc.

We demonstrate how these tasks and projects are positioned within the framework of tasks and projects in the previous literature and examine the characteristics, expected effects, and potential issues of these materials. Through this report, we aim to support the further development and implementation of materials for supporting career development.

はじめに

グローバル化が推進される現在、日本に留学し、日本の企業に就職するなどして、日本で学んだことを自身のキャリア形成に生かそうとする留学生が増えている（出入国在留管理庁 2021）¹⁾。また、留学生か日本人学生かを問わず、グローバル社会において言語や文化背景が異なる他者と協力し、新たな価値を創出できる人材を育成することが期待されている（産学人材育成パートナーシップ グローバル人材育成委員会 2010）。

1) 2021年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で減少傾向だったが、それまでは増加傾向にあった。

そのため、留学生教育においては、日本語教育だけでなく、キャリア形成支援やそのための調査、教材開発も求められるようになってきている（渋谷他 2017、寅丸他 2018、2019 など）。また、留学生と日本人学生が対等な立場で意見交換やグループワーク、プロジェクトなどの協働作業を通して学ぶ「国際共修」の授業（末松他 2019 など）の実施も、グローバル社会で活躍する人材のキャリア形成支援に寄与しうると考えられる。こうした状況において、留学生や日本人学生がグローバル人材として日本の国内外で活躍していくために、日本語授業、および国際共修などの教育現場において、どのような教材を用いてどのようなキャリア形成支援を行っていくべきか、検討を重ねることは意義があると言える。

そこで筆者らは、留学前後の留学生および日本人学生を対象とした、キャリア形成支援のための教材『エピソードとタスクから描く私のキャリアプラン』（菅長他 2022、以下『私のキャリアプラン』とする）を開発するに至った。

『私のキャリアプラン』には、先輩留学生（日本で学んだ元留学生）の複数のエピソードの他に、エピソードと関連付けながら行うタスクやプロジェクトが用意されている。このタスクやプロジェクトは、キャリア形成における様々な局面の疑似的な体験や、多様性に富んだ仲間と情報共有や議論をするための活動から構成されている。これらの活動は、学生達がグローバル社会で自らのキャリアを切り開いていくための知識、スキル、思考力の養成を行うことをねらいとしている。

本稿では、『私のキャリアプラン』の設計と特徴について、主にタスクとプロジェクトに焦点を当てて報告する。まず、1章で、本教材の開発に向けて行ったキャリア形成支援教材開発のための基礎調査について述べる。また、本教材で設計したタスクとプロジェクトの位置付けを把握するために、タスクとプロジェクトの枠組み（形式・分類）に関する先行研究を概観する。そして、2章で本教材全体の設計を述べた上で、3章と4章でタスクとプロジェクトに焦点を当て、その特徴について詳述する。また、これらをもとに、本教材におけるタスクとプロジェクトの位置付けを明らかにし、本教材の使用で期待される効果、留意点について述べ、今後のキャリア形成支援のための教材作成・実践に生かすことを目指す。

1. 先行研究

まず、筆者らのキャリア形成支援教材の開発で参考にした基礎調査について述べる。次に、本稿で焦点を当てる「タスク」と「プロジェクト」について、先行研究における定義と枠組み（形式・分類）を概観する。

1.1. キャリア形成支援教材開発のための基礎調査

渋谷他（2017）は、キャリア形成支援のための既存の教材、および教育実践の報告を調査した結果、初年次教育用の教材が日本人学生対象のものに限られており、留学生対象のものはビジネス日本語教材に限定されていたことが明らかになったと述べている。そして、日本人学生対象の初年次教育用の教材は社会で求められる人材の養成が目的であり、留学生対象のビジネス日本語教材は言語表現の習得から問題発見・解決能力などの養成へと目的が変化してきてい

ることが分かったという。また、長期的な視野から学生が自身のキャリアを考えられるような教材があまり見られなかったことも指摘している。

これらの調査結果をふまえ、渋谷他（2017）では、今後求められる留学生対象のキャリア形成支援教材として、以下の6点を盛り込むべき要素として提案している。

- (1) 学部入学の早い段階からのキャリア形成意識の養成
- (2) 問題発見・解決能力の養成
- (3) 人間関係構築力の養成
- (4) 日本社会や企業文化に関する基礎知識の提供
- (5) 多様な働き方の選択肢の提示
- (6) 留学生の日本語レベルに応じた理解しやすい表現での記述

1. 2. タスクとは

Nunan (1989:10) は、言語教育中で行われるコミュニカティブなタスクについて、「目標言語を用いて理解、処理、産出、やり取りをするといった、形式よりも主に意味に焦点を置いたクラス活動の一部である」(筆者ら和訳) と定義している。この他、タスクの定義や分類などは様々な議論されているが、本稿では、英語教育の分野で網羅的にタスクについて整理している松村(2012)の「タスクの条件」と「タスクの分類」を参考にする。

まず、松村(2012)は、Ellis(2003)、Van den Branden(2006)、Samuda & Bygate(2008)などの定義をふまえ、学習者に与えられる「タスクの条件」として、表1のような4点を挙げている。そして、固定されたセリフやスクリプトを暗記して読み上げるようなものはタスクとは言えないが、状況設定して学習者が判断して話すようなロールプレイや、学習者が小さなグループで個人的な体験を話して質疑応答するようなスピーチはタスク的な性格を帯びているとしている。さらに、松村(2012)は、「タスクの型」という点からも、表2のような4種に分類している。

表1 タスクの条件 (松村2012: pp.8-9)

(1) 活動成果の重視	問題の解決や合意された結論、完成された絵など、活動にその「成果」としてのゴールが設定されており、学習者の評価も(使うことのできた言語形式やその正確さではなく)それらの成果そのものによってなされること
(2) 意味へのフォーカス	学習者が持つ情報や意見が異なっていたり、状況に解決すべきジレンマが含まれていたり、その場に何らかの不一致や不整合、ある種の溝(ギャップ)が存在しており、それが(形式ではなく)意味内容に焦点を当てた理解や表出の必要を生み出していること
(3) 自然な認知プロセス	比較や描写、選択、整序、意思決定など、実生活での言語使用におけるのと変わらない認知作業が学習者に要求されていること
(4) 学習者の主体的関与	学習者自身にとっての意味やリアリティーを持ち、その主体的な関与と判断によって達成される課題であること

表2 タスクの型 (松村2012: pp.25-26一部要約)

(1) ジグソー型タスク	ペアあるいはグループになった学習者が絵や文章の断片を持ち寄ってその全体を完成させたり、問題を解決したりするタスク
(2) 情報交換型タスク	学習者が持っている情報の不一致を埋めるためにやり取りが必要とされるタスク
(3) ナレーション型タスク	絵や文章、ビデオの内容、あるいは自身の経験などを学習者がモノローグとして語る (retell) 課題
(4) 問題解決/議論型タスク	学習者が何らかの問題への解決策を見出すことや、与えられた状況で一定の結論に至ることを (多くの場合ほかの学習者とともに、しかし場合によっては個々に) 求めるもので、意見の不一致や推論上の溝が組み込まれているもの

1. 3. プロジェクトとは

鈴木 (2012:18) は、プロジェクトについて「ビジョンや使命感に基づき、ある目的を果たすための構想や計画など」を指すとし、学習者が目的と目標を自覚していること、基本的な段階 (課題発見→ゴール決定→計画→情報収集・解決策→制作→プレゼンテーション→再構築→成長確認→ゴール) を経ること、価値ある「知の成果物」(他者に役立つ知の成果) を創り出すことが特徴であると述べている。こうしたプロジェクトは、グローバルな知識創造の時代に求められる教育として、学校教育から教員研修、市民教育、卒業前後のキャリア育成などの場で行われてきているという (鈴木 2012)。

日本の学校教育の中では、2000年代からカリキュラム改革などとともに、プロジェクト学習の検討と実践が行われてきた。稲垣・菅原 (2015) は、プロジェクト学習について、学習課題を設定し、情報収集したことをまとめて発表するといった探求型の学習活動のことであると定義し、田中 (2002) の6つのカリキュラムがそれぞれプロジェクトの種類に当てはまると述べている。この田中 (2002) の6つのカリキュラムとは、平成14年度 (2002年度) からの「総合的な学習の時間」の創設²⁾の要請に応じて、学校教育における総合的な学習のカリキュラム開発を行い、表3のような「6つのカリキュラムモデル」として整理したものである。これらは、単元レベルのカリキュラムのあり方を形づくるもので、21世紀に主体的に生きる人間の自己実現や問題解決のあり方を想定して作られているという (田中 2002)。

表3 6つのカリキュラムモデル (田中2002: pp.3-4一部要約)

カリキュラム	定義
(1) 調査研究型	環境問題や福祉問題、平和問題等について、文献、インターネット、語り部へのインタビュー、アンケート調査などで調べて、その成果をまた多様な表現方法で発表するという方式
(2) 総合表現型	演劇やミュージカル、そしてマルチメディア作品の制作と上演を最終目標とする学習
(3) 社会参加型	ボランティア活動や、職場体験学習、環境問題や人権問題に関する啓発活動等を地域で実施すること

2) 「総合的な学習の時間」の創設とは、「各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、国際理解、情報、環境、福祉・健康など横断的・総合的な学習などを実施する」時間とされている (文部科学省)。

(4) 企画実践型	環境フェア、国際交流フェスティバル、子ども商店街、郷土芸能フェスタ等のイベントの企画から運営
(5) 共同交流型	インターネットやビデオレター、そしてテレビ会議システムを活用した情報交換による学校間の共同学習や、合同体育祭や合同遠足等による学校間の交流学習
(6) 自己形成型	「自らの生き方を考える」ことを中心的なねらいとしているもの（例えば、自叙伝を書いて自分の成長を振り返ったり、二分の一成人式を開いたり、親子ふれあい学習を通してコミュニケーションを深めたり、あるいは、未来のわが町をイメージしたり、そこでの自分の職業を構想してみるなどして、自尊感情を高めて自分のよりよい生き方を探ることをねらいとしているもの）

さらに、田中（2002）は、総合的な学習の単元づくりとして、プロジェクト学習を取り上げ、表4のような「プロジェクト学習の5つの特徴」を挙げている。また、田中（2002）は、総合的な学習の単元レベルでの活動構成において、表5のような「3つのE」を組み込むことで、多様な実践スキルの育成がバランスよく効果的にできると述べている。

表4 プロジェクト学習の5つの特徴（田中2002: pp.36-37）

(1) 作業や制作活動を中心とした学習を行う
(2) プロジェクトの企画・運営・評価を主体的に進める
(3) 問題意識や目的意識等に関わる自分の思いを実現する
(4) 社会参加によって活動や作品を活かす実践活動を行う
(5) 総合的な知識、技能、態度を体験を通して身につける

表5 3つのE（田中2002: pp.39-40）

(1) 探求 (Explore)	いわゆる調べ学習に関わる活動のことで、実践スキルに対応させてみると、「知る力」を育てる活動が含まれる 例) インターネット検索、アンケート調査、インタビュー、文献研究
(2) 表現 (Express)	制作と上演・発表活動に関わる活動のことで、実践スキルとしては、「創る力」と「表す力」を育てる活動が含まれる 例) プレゼンテーション、ホームページの制作、演劇の上演、レポートの制作
(3) 交流 (Exchange)	相手との人・物・情報の交換による相互啓発の活動のことで、実践スキルの中では、「関わる力」に対応している 例) フェスティバルの開催、福祉施設の訪問、電子メールの交換、学校間交流

以上、本章では、キャリア形成支援教材の開発で参考にした基礎調査について述べ、タスクとプロジェクトの枠組み（形式・分類）に関する先行研究を概観した。以下、2章、3.1、4.1では、「1.1. キャリア形成支援教材開発のための基礎調査」をもとに開発した、教材『私のキャリアプラン』の設計と特徴について述べる。さらに、3.2、4.2では、「1.2. タスクとは」、および「1.3. プロジェクトとは」の先行研究で挙げられている様々な種類のタスク、プロジェクトの枠組み（形式・分類）の中で、本教材がどのように位置付けられるかを明確にする。その上で、本教材の特徴、期待される効果、留意点について検討する。

2. キャリア形成支援のための教材設計

筆者らは、渋谷他 (2017) の 6 要素を念頭に、留学前後の留学生および日本人学生 (以下、学生) が早い段階からキャリア形成意識を持ち、キャリアを切り開いていくのに必要となる「課題発見・解決能力」「人間関係構築力」を養うことを目的とした教材『私のキャリアプラン』の開発を行った。本章では、『私のキャリアプラン』の「はしがき」で述べられているキャリア形成支援における理念、教材全体の目的、およびタスクとプロジェクト設計の経緯と目的についてまとめる。さらに、これらの理念・目的のために設計された、各課の構成と目標についても概観し、本教材の特徴、期待される効果について述べる。

まず、筆者らは、人生の様々な局面において自らの人生を豊かなものにしていくことが「キャリア形成」であり、そのための道しるべを自ら発見していけるように支援することが「キャリア形成支援」であると考えている。そのため、専門が多岐にわたった元留学生である先輩達にインタビューを行い、その体験談をまとめたエピソード教材を作成した。エピソードでは、日本の大学・専門学校への留学によって異文化を体験し、学生生活、就職、育児などの人生の様々な局面において、様々な困難を乗り越えながら自らのキャリアを切り開いていった語りまとめられている。学生達がこれらを読んで、自身に引き付けながらディスカッションすることで、異文化環境で直面する困難への心構えをし、多様な働き方の選択肢の知識を備えて、今後の自分なりのキャリア形成のあり方を考えることをねらいとしている。

これらのエピソード教材を作成後、留学生を対象とした日本語授業で試用し、渋谷他 (2018)、中井他 (2019) において、授業での留学生の学びと教材の有効性について報告した。ここからさらに、体験談を受動的に読み取ってエピソードの内容を理解するだけではなく、体験談からの学びをより発展させた活動に繋げることで、学びがより深まるのではないかと考えた。

そこで、グローバル社会での身の処し方について「議論」および「(疑似) 体験」をする活動を行い、様々な場面で臨機応変に対応するための知識、スキル、思考力を高められるタスクやプロジェクトをさらに開発することとした。具体的には、先輩留学生のエピソード教材と緩やかに繋がるものとして、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ、インタビューなどの教材を開発した。グローバル社会での活躍を目指す学生が日本語や国際共修の授業などで議論し、自分の考えをまとめることで、異文化環境で直面する困難への心構えや、異なる文化背景の人とのよりよい関係作りについての知識や考え方が深められることを企図した。

本教材は、第 1 部「日本の大学・学校で学ぶ」(第 1 課～第 6 課：読み物とコミュニケーションタスク)、第 2 部「将来のキャリアを考える」(第 7 課～第 10 課：読み物とキャリアタスク)、第 3 部「専門性を高める」(第 11 課～第 13 課：読み物とソーシャルタスク)、第 4 部「プロジェクト編」(1～4) という 4 部構成となっている。本教材の各課のタイトルと目的は、表 6 の通りである。

表6 『エピソードとタスクから描く私のキャリアプラン』（菅長他2022）全体構成

課	エピソード	目標	コミュニケーションタスク	目標
1.	異文化を学ぶ意味	異文化を学ぶ意味について考える	スピーチ：私の日本語・外国語学習の意味	自分にとっての日本語・外国語学習の意味について考え直し、スピーチで人に伝える
2.	日本語の勉強の工夫について後輩にアドバイスしたいこと	学習方法の工夫について考える	プレゼンテーション：自分の勉強法の紹介	自分の勉強方法を振り返ったり、紹介したり、他者の勉強方法を知ること、よりよい勉強方法を見つける
3.	日本語の壁を越える	大学生活での日本語の壁と克服方法を考える	ディスカッション：友だちになりたい人について話し合う ロールプレイ：友だちになる	価値観の多様性を知り、自身の価値観に気づく 友だちを作るときのきっかけ作りを考える
4.	部活のカルチャーショック	大学生活で出会うカルチャーショックについて考える	ディスカッション：異文化間のコミュニケーションの仕方について話し合う	多様な学生間での話し合いや協働作業、調整の仕方について考える
5.	勉強の困難を乗り越える	大学生活の困難点と克服方法を考える	ロールプレイ：先生に相談する	先生に課題について相談する方法を考える
6.	部活を通して日本文化を学ぶ	日本文化の一側面を知る	ロールプレイ：アルバイト先の上司に許可をもらう	アルバイト先の上司に丁寧に頼んで許可をもらう方法を考える
課	エピソード	目標	キャリアタスク	目標
7.	グローバル人材の資質	グローバル人材とはどんな人材か考える	グローバル人材の資質チェック	「グローバル人材」になるために必要とされる資質を確認し、自分の強みと弱みを知る
8.	母国の発展に立ち会う	将来どんな仕事をしたいか考える	キャリアプランの作成	自分史を振り返り、これからのキャリアプランを描く
9.	キャリアアップを目指す	さまざまな職業について知る	自己PRの方法	就職活動で効果的に自己PRができるように備えておく
10.	仕事と生活をマネジメントする	二つのことを両立させる方法を考える	ワーク・ライフ・バランスの実現	さまざまなことをマネジメントしながらワーク・ライフ・バランスを実現する方法を検討する
課	エピソード	目標	ソーシャルタスク	目標
11.	研究者への道 ①人間関係を作る・調整する ②研究室で研究を行う ③研究者としてのキャリアを形成する	3つのエピソードのジグソーディングから、留学生活・研究生活での人間関係の作り方、研究の仕方、研究者としてのキャリア形成を考える	人間関係構築のための会話の話題と態度	よい人間関係を作るための会話の話題と態度について考える
12.	グローバルな専門家になる	専門分野や研究テーマの選び方を考える	世界を広げるためのネットワーク形成	世界を広げ、視野を広げるためのネットワーク作りについて考える
13.	キャリアの種を育てる	これまでの経験や特技をどのように将来につなげていくか考える	コミュニティ参加のための暗黙のルール	さまざまなコミュニティや場面にうまく参加するためのルールについて考える

プロジェクト		活動内容
1.	話し合い	1-1 話し合いのビデオを見て分析する・表現を学ぶ 1-2 話し合いを実践する・振り返る・報告する
2.	敬語表現	2-1 敬語の使い方を練習する 2-2 敬語観察ジャーナルを記録して報告する
3.	エピソードの紹介・司会進行	3-1 エピソードの内容紹介の発表をする 3-2 ディスカッションの司会進行をする
4.	インタビュー	4-1 インタビューのビデオを見て分析する 4-2 インタビューを計画する・実施する・発表する

本教材を使用してキャリア形成支援教育が行えるコースは、大学別科や日本語学校などの進学予備教育のほか、高等教育機関の日本語授業（読解、口頭表現、総合クラスの補助教材）、大学の国際共修授業などが想定される。1つの課のエピソードとタスクにつき、90分授業1コマ程度で扱うことができる。プロジェクトは、2、3コマ程度の時間をかけて準備から発表までできる。

以上から、本教材の特徴は、次の2点にまとめられる。

- (1) 異文化、留学、日本語学習、日本の大学生生活、研究生活、職場での人間関係構築など、学生がこれからのキャリア形成過程で遭遇しうる場面や話題を幅広く扱ったエピソード教材を備えている。
- (2) スピーチ、ディスカッション、ロールプレイなどによって日本語運用力を高めるだけでなく、より豊かなキャリアを形成していくために何が必要かについて、考えを深めるためのタスクとプロジェクト教材を備えている。

ここから、本教材の使用によって、グローバル社会の様々な場面で対応できる知識、スキル、思考力を身につけると同時に、過去－現在－未来をつなぎながらキャリアを形成していく意識を養い、自身のキャリア形成に生かせるようになることが期待できると考える。

以下、3章と4章において、本教材の各タスクとプロジェクトに焦点を当て、設計と特徴についてさらに詳しく述べる。

3. タスクの設計と特徴

3.1. タスクの設計

設計したタスクは、先輩留学生の体験談のエピソードを読んだ後、学生が自身のことと関連付けながら半コマ～1コマ程度で行う比較的小規模な活動であり、キャリア形成の上で役に立つ知識、スキル、思考力が高められるものとなっている。タスクは、(1) 日本語力の向上のための「コミュニケーションタスク」、(2) キャリア形成に関するイメージを描き、課題発見・解決能力を磨くための「キャリアタスク」、(3) より高度な社会的人材となるための「ソーシャルタスク」の3種類に分かれている。以下、各タスクについて目的と特徴を述べる。

3. 1. 1. コミュニケーションタスク

コミュニケーションタスクは、日本語による表現力とコミュニケーションスキルを高め、主に人間関係構築力を養成するための教材である。タスクは、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイの活動から構成されている。これらのタスクにより、読んだエピソードについての話し合いを通して得られる気づきをもとに、実際に自分ならどのようにするか考えられるようになっている。以下、各タスクの詳細を述べる。

- (1) **スピーチ (私の日本語・外国語学習の意味)** : 教材で示されている「異なる言語・文化を学ぶ意味」のスピーチを読んだ後、学生が自分にとっての日本語・外国語学習の意味についてグループで話し合い、スピーチで人に伝えるタスクである。
- (2) **プレゼンテーション (自分の勉強法の紹介)** : エピソードで紹介されている先輩留学生3人の留学中の日本語学習法を読んだ後、学生が各自の学習方法についてグループで情報交換をし、よりよい学習方法を見つけるヒントにするタスクである。
- (3) **ディスカッション (友だちになりたい人について話し合う)** : 6人の様々な性格の人物像を見て、どの人と一番友だちになりたいか、または友だちになりたくないか、その理由とともにディスカッションするタスクである³⁾。これにより、学生が自身の価値観に気付くとともに、互いの価値観の違いや多様性を確認し、キャリア形成を行う際にどのように人間関係を構築していくべきか考えるきっかけとする。
- (4) **ロールプレイ (友だちになる、先生に相談する、アルバイト先の上司に許可をもらう)** : ロールプレイを通して、日本で友だちを作る時のきっかけ作りや、教員に課題について相談する方法、アルバイト先の上司に丁寧に頼んで許可をもらう方法を検討し、日本語で表現できるようにするタスクである。
- (5) **ディスカッション (異文化間のコミュニケーションの仕方について話し合う)** : 多様な学生間での話し合いや協働作業、調整の仕方について考え、異文化間のコミュニケーションの仕方を意識化するタスクである。

3. 1. 2. キャリアタスク

キャリアタスクは、自身を客観的に捉えてキャリア形成のイメージを描き、課題発見・解決能力を磨くための教材である。タスクは、グローバル人材の資質チェックのほか、キャリアプランの作成、自己PRの方法の確認と練習、マネジメントとワーク・ライフ・バランスについての話し合いから構成されている。これらのタスクにより、これまでの自身の生き方を振り返り、自身の強みと弱みを把握して、今後の理想のキャリアプランを思い描くことで、今取り組むべき課題を発見できるようになっている。以下、各タスクの詳細を述べる。なお、タスク(1)と(4)の試用の分析は、渋谷他(2018)で報告している。

- (1) **グローバル人材の資質チェック** : グローバル人材になるために必要とされる11の資質を確認し、自身がどの程度備えているかを、3段階でチェックして、自身の強み、

3) 館野・中原(2016)の「社会人カード」を参考に作成した。

弱みを把握したうえで、今後のキャリア形成における自身の課題を意識化するタスクである。この11の資質は、グローバル人材として活躍している元留学生に対して行ったインタビューなどをもとに抽出したものである(菅長・中井2015)。

- (2) **キャリアプランの作成**：これまでの人生を振り返り、よかったこととよくなかったことを高低のグラフで表し、さらに、今後どのようになっていくかも予想した上で、どのようなキャリアを積んでいきたいか、勉強・仕事、私生活の面から考えていくタスクである。個人作業で記入した後に、ペアまたはグループで報告することで、クラスメートのこれまでの歩みや人物像を知ることできる。ただし、話したくないことは話さなくてもよいことにしておく。
- (3) **自己PRの方法**：就職活動の面接で行う自己PRの内容や注意点、準備すべきことを確認し、実際に自己PRをしてみても振り返るというタスクである。これにより、効果的に自己PRができるように備えておく。
- (4) **ワーク・ライフ・バランスの実現**：現在や将来に両立させたいことと、そのための方法について書き出して、話し合う。また、育児や家事と仕事のバランス、家族間での分担などの問題や理想などについても話し合う。これにより、様々なことをマネジメントしながらワーク・ライフ・バランスを実現する方法を考える。

3.1.3. ソーシャルタスク

ソーシャルタスクは、様々な人と良好な人間関係を築き、ネットワークを広げ、留学生活を実りあるものにし、専門性を生かして活躍するのに必要なことを考えるための教材である。タスクは、人間関係構築のための会話の話題、世界を広げるためのネットワーク形成、コミュニティ参加のための暗黙のルールなどについて考える活動から構成されている。以下、各タスクの詳細を述べる。

- (1) **人間関係構築のための会話の話題と態度**：文化や状況による会話の話題や態度の違いについて考え、よい人間関係を作るにはどのような会話をすればよいかを意識化するタスクである。
- (2) **世界を広げるためのネットワーク形成**：世界を広げ、視野を広げるためのネットワーク作りについて考えることで、様々な人と良好な人間関係を築きながら専門性を生かして活躍するのに必要なことを考えるタスクである。具体的には、これまで、どのようなコミュニティや組織、人とつながってきたか、これからどのように自分の世界を広げていきたいかを考え、図の中央に自分の名前を入れ、その周りに自身のネットワークの繋がりを記入していく。
- (3) **コミュニティ参加のための暗黙のルール**：国内外の様々なコミュニティに参加していくために知っておくべき暗黙のルールについて、自身の体験や考えを共有するタスクである。

3.2. タスクの特徴および期待される効果・留意点

以上、3.1で述べた各タスクについて、1.2で概観した先行研究のタスクの枠組み(形式・分類)

にどのように当てはまるかを表7にまとめた。ここから、本教材のタスクの位置付けを確認し、キャリア形成教材としての特徴、期待される効果、留意点を検討する。

まず、松村(2012)の「タスクの条件」(前掲表1(1)～(4))に当てはめて検討すると、いずれのタスクも4つの条件のうち3つ以上の項目に当てはまると言える。「(1)活動成果の重視」の条件として、「問題の解決や合意された結論」がゴールとして設定されていないタスクが見られる(3、4、11、13課)が、いずれも答えが1つではない多様な観点を持ちうる課題について学生同士が話し合うタスクである。キャリア形成上、こうした多様な観点の共有や話し合いの機会は、多様性への柔軟な対応を可能にする第一歩であるという点で重要であり、学生一人一人の問題発見にもつながると考えられる。また、「(2)意味へのフォーカス」「(4)学習者の主体的関与」の条件は、いずれのタスクにも含まれ、重要な要素となっている。さらに、「(3)自然な認知プロセス」の条件である「比較や描写、選択、整序、意思決定など、実生活での言語使用におけるのと変わらない認知作業」は、ほぼ全てのタスクに含まれると考えられる。1、2課のスピーチ、プレゼンテーションは、「実生活」といった日常場面ではあまり行われなとも考えられるが、大学生活の中ではよくあるアカデミックな認知作業だと言える。また、これらのタスクでは、各自の情報を「描写」し、グループで共有して「比較」した上で、自身の今後の行動の「選択」、「意思決定」などが行えるようになっている。

表7 本教材の各タスクの特徴

課	コミュニケーションタスク	タスクの条件(松村2012)				型(松村2012)
		(1)活動成果	(2)意味	(3)認知プロセス	(4)主体的	
1.	スピーチ：私の日本語・外国語学習の意味	○	○	○	○	(3)ナレーション型
2.	プレゼンテーション：自分の勉強法の紹介	○	○	○	○	(3)ナレーション型
3.	ディスカッション：友だちになりたい人について話し合う	-	○	○	○	(4)問題解決/議論型
	ロールプレイ：友だちになる	○	○	○	○	(4)問題解決/議論型
4.	ディスカッション：異文化間のコミュニケーションの仕方について話し合う	-	○	○	○	(4)問題解決/議論型
5.	ロールプレイ：先生に相談する	○	○	○	○	(4)問題解決/議論型
6.	ロールプレイ：アルバイト先の上司に許可をもらう	○	○	○	○	(4)問題解決/議論型
課	キャリアタスク	タスクの条件(松村2012)				型(松村2012)
		(1)活動成果	(2)意味	(3)認知プロセス	(4)主体的	
7.	グローバル人材の資質チェック	○	○	○	○	(4)問題解決/議論型
8.	キャリアプランの作成	○	○	○	○	(4)問題解決/議論型
9.	自己PRの方法	○	○	○	○	(3)ナレーション型
10.	ワーク・ライフ・バランスの実現	○	○	○	○	(4)問題解決/議論型

課	ソーシャルタスク	タスクの条件 (松村 2012)				型 (松村 2012)
		(1) 活動成果	(2) 意味	(3) 認知プロセス	(4) 主体的	
11.	人間関係構築のための会話の話題と態度	-	○	○	○	(4) 問題解決/議論型 (※ 11 課エピソードの読解はジグソーリーディングになっている)
12.	世界を広げるためのネットワーク形成	○	○	○	○	(4) 問題解決/議論型
13.	コミュニティ参加のための暗黙のルール	-	○	○	○	(4) 問題解決/議論型

さらに、松村 (2012) の 4 つの「タスクの型」(前掲表 2(1)～(4)) に関しては、「(3) ナレーション型タスク」と「(4) 問題解決/議論型タスク」が中心となっている。ここから、学生が自身のキャリア形成上の問題意識や人間関係構築のあり方、コミュニケーションの仕方などについて、様々な観点から伝え合い話し合う活動を行うことで、問題発見・解決能力および人間関係構築力の養成が期待できると言える。また、「(1) ジグソー型タスク」としては、第 11 課のエピソードが 3 つに分かれており、学生が 3 つのグループに分かれて各エピソードを読解してその内容説明を他のグループに行うといったジグソーリーディングのタスクが設けてある。これにより、3 つのエピソードを伝え合い、統合して考えるといった問題発見・解決能力を高め、そこで話し合った内容からキャリア形成意識の養成が行える。なお、「(2) 情報交換型タスク」は、本教材のタスクには設けていないが、これは学生が持っている情報の不一致を埋めるためのやり取りのタスクであり、言語教育の授業でゲームのように行う活動であると言える。キャリア形成支援のための本教材の趣旨とは合わないため、タスクとして設けていないとも言える。

以上のように、タスクの枠組み(形式・分類)から本教材のタスクの位置付けを見ると、様々な形式で日本語を用いながら活動できることが特徴として見出せる。そして、本教材のタスクに期待される効果としては、「問題発見・解決能力の養成」、「人間関係構築力の養成」、「キャリア形成意識の養成」などが挙げられる。また、留意点は、本教材をより有効に活用するために、教師と学生が各タスクの形式の特徴やねらいを十分に理解し、意識化しながら、教室活動を行うことである。そのためには、タスクを行う際のヒントが得られるような教師用指導書も整備する必要があると考える。

4. プロジェクトの設計と特徴

4.1. プロジェクトの設計

設計したプロジェクトは、エピソードから独立し、タスクよりも時間を要する活動規模の大きなもので、教室内外で、学生が主体的に分析や調査を行い、その体験からの発見を発表する探究型の活動である。プロジェクトは、(1) 話し合い、(2) 敬語表現、(3) エピソードの紹介・司会進行、(4) インタビューの 4 種から構成されている。各プロジェクトを行うにあたって、必要となる知識や表現、技能なども段階的に確認・練習できるように、それぞれいくつかの小さなタスクを複合的に設けてある。以下、各プロジェクトの詳細を述べる。

- (1) **プロジェクト1：話し合い**：まず、よい話し合いの方法について検討し、話し合いのよい例、悪い例のビデオ⁴⁾を視聴し、留意点や表現方法を確認する(教材1-1)。その後、実際に話し合いをしてみても振り返る活動を行った上で、よい話し合いの方法をリスト化して発表することが目標となっている(教材1-2)。本教材は、第3課、第4課のコミュニケーションタスク「ディスカッション」を行う前に、話し合いの仕方を意識化して臨めるように用いることもできる。なお、話し合いのビデオ教材試用の分析は、中井(2020、2021)で報告している。
- (2) **プロジェクト2：敬語表現**：まず、基本的な敬語の体系と用法を確認・練習する(教材2-1)。その後、学生が教室外の実際の会話をデータとして観察し、その中で使われている敬語を書きとって、報告し、敬語への理解を深めることが目標となっている(教材2-2)。実際の会話データを収集するのが難しい場合は、インターネットで配信されている会話やドラマなどを用いてもよい(ただし著作権には注意する)。また、会話中の敬語を観察して報告する項目として、会話の場面、会話参加者の人間関係、会話中の敬語表現などが教材中に示してある。本教材は、第5課、第6課のコミュニケーションタスク「ロールプレイ：先生に相談する、アルバイト先の上司に許可をもらう」のほか、「プロジェクト3：エピソードの紹介・司会進行」、「プロジェクト4：インタビュー」を行う前後に、敬語表現の意識化と練習として組み合わせて用いることも可能である。
- (3) **プロジェクト3：エピソードの紹介・司会進行**：まず、授業中に扱いきれなかったエピソードなどの内容を学生が分担して紹介する。また、エピソードの内容を自分のものとしてより深く理解するために、エピソードの中の1場面を選んで演じてみる課題も設けてある(教材3-1)。さらに、エピソードの内容に関するディスカッションの司会進行をするという学生主体の活動を行うことが目標となっている(教材3-2)。
- (4) **プロジェクト4：インタビュー**：学生が様々な場所で活躍する人々にインタビューを行う活動で、すべてのエピソード、タスク、プロジェクトの総仕上げのように行うことも可能である。まず、インタビューのマナーや方法を検討し、よい例、悪い例のビデオを視聴し、留意点や表現方法を確認する(教材4-1)。その後、学生が各自、インタビューしたい人を選び、主体的にインタビューを計画・実施・発表することで、様々なキャリア形成のあり方について生の声を聞いて、自身のキャリア形成の参考にすることを目標としている(教材4-2)。なお、本プロジェクトの教材試用の分析は、渋谷他(2018)で報告している。

4.2. プロジェクトの特徴および期待される効果・留意点

以上、4.1で述べた各プロジェクトの教材について、1.3で概観した先行研究のプロジェクト

4) 本ビデオ教材は、話し合いの分析ポイント(例：表現方法、論理性、内容の深まり、聞き手の役割など)を予め指定し、よい例・悪い例として際立って現れるように、演劇部の学生にシナリオを作成してもらった。そして、同演劇部の学生4名にシナリオ通りに演じてもらっているところを撮影して、作成した。(4)インタビューのビデオ教材も同様である。

の枠組み（形式・分類）にどのように当てはまるかを表8にまとめた。ここから、本教材のプロジェクトの位置付けを確認し、キャリア形成教材としての特徴、期待される効果、留意点を検討する。

まず、田中（2002）の「6つのカリキュラムモデル」の枠組みから見ると、本教材のプロジェクトはいずれも「(1) 調査研究型」に当てはまり、学生が問題発見をし、その解決を図るために様々な情報を集め、共有することを主たるねらいとしていることが分かる。「プロジェクト3：エピソードの紹介・司会進行」は、エピソードの内容を演じる課題もあるため、「(2) 総合表現型」にも当てはまる。だが、その他の「(3) 社会参加型」「(4) 企画実践型」「(5) 共同交流型」に直接当てはまるプロジェクトはない。これらのプロジェクトは、鈴木（2012）や稲垣・菅原（2015）が述べるような、学校教育の中で子供達が社会を知り、参加し、協働で何かを行っていく力を育成することを目標とし、授業の時間を十分に使って総合的に学習していく大規模で長期型の活動であると言える。本教材で設計したプロジェクトは、いずれも大学教育などの時間制限がある中でアカデミック能力育成とキャリア形成支援を中心にした教室内で行う小規模で短期型の活動（2、3コマ程度）となっているため、「(3) 社会参加型」「(4) 企画実践型」「(5) 共同交流型」を十分に扱うことが難しかったと言える。だが、これら3つの活動は、大学生活とその後の社会生活を行う学生にとっても必要な社会的知識、協働作業の経験の獲得といった点で重要である。本教材では時間を要する大規模なプロジェクトとしてこれら3つの活動を扱っていないが、エピソード教材やタスクでの小規模な話し合い、協働作業で扱うようにしている。今後は、これらの大規模で長期的な活動も取り入れたプロジェクトを設計していくことも新たな課題であろう。なお、「(6) 自己形成型」も直接当てはまるプロジェクトはないが、本教材全体が「自らの生き方を考える」、つまりキャリア形成意識の養成といった一貫した目的で構成されていると言える。

次に、「プロジェクト学習の5つの特徴」に関しては、「(1) 作業」と「(5) 総合的体験」を中心としたプロジェクトが設計されている。「(2) 主体的」な活動は、各プロジェクトの総仕上げとして1-2、2-2、3-2、4-2で学生が行う報告や発表の部分が当てはまる。学生が各自の「(3) 問題意識」を持って、「(4) 社会参加」していくようなプロジェクトは、「2-2 敬語観察ジャーナルを記録して報告する」および「4-2 インタビューを計画する・実施する・発表する」の活動が当てはまる。この「観察する」という行為は、社会に出てからの身の処し方を自律的に学ぶという点でも重要な位置を占めるものであり、学生時代に体験し、意識化しておくことには大きな意味があると考えられる。

さらに、プロジェクトで必要とされる「3つのE」（田中2002）に関しては、各プロジェクトで設けられている活動を1つずつ行っていくことで、「(1) 探求」「(2) 表現」「(3) 交流」を段階的にバランスよく扱うことができると言える。ただし、「交流」が若干少ないとも考えられるため、教室に先輩留学生を招待して話す活動や、教室外の様々な人と話す活動といった「交流」の機会が持てるプロジェクトやタスクを適宜補うことも必要であろう。

表8 プロジェクト学習の5つの特徴（田中2002: pp.36-37）と本教材のプロジェクトの関係

プロジェクト		カリキュラム	プロジェクト学習の5つの特徴					3つのE
			(1)作業	(2)主体的	(3)問題意識	(4)社会参加	(5)総合的体験	
1. 話し合い	1-1 話し合いのビデオを見て分析する・表現を学ぶ	調査研究型	○	-	-	-	○	探求
	1-2 話し合いを実践する・振り返る・報告する	調査研究型	○	○	-	-	○	表現 交流
2. 敬語表現	2-1 敬語の使い方を練習する	調査研究型	○	-	-	-	○	表現
	2-2 敬語観察ジャーナルを記録して報告する	調査研究型	-	○	○	△	○	探求 表現
3. エピソードの紹介・司会進行	3-1 エピソードの内容紹介の発表をする	調査研究型 総合表現型	○	-	-	-	○	探求 表現
	3-2 ディスカッションの司会進行をする	調査研究型	-	○	-	-	○	表現
4. インタビュー	4-1 インタビューのビデオを見て分析する	調査研究型	○	-	-	-	○	探求
	4-2 インタビューを計画する・実施する・発表する	調査研究型	○	○	○	△	○	探求 表現 交流

以上のように、プロジェクトの枠組み（形式・分類）から本教材のプロジェクトの位置付けを見ると、学生が問題意識を持って主体的に情報収集・共有することが主たる特徴として見出せる。そして、本教材のプロジェクトに期待される効果としては、問題発見・解決能力の養成、人間関係構築力の養成、キャリア形成意識の養成などが多角的に行えることが挙げられる。また、留意点としては、より充実した活動となるように、学生が協働で企画を行い、教室外の人々と交流していけるような長期型のプロジェクトも加えていく可能性を検討することが挙げられる。日本語教育に限らず、学校教育、市民教育などで行われている社会参加型、企画実践型、共同交流型のプロジェクトも参考にしていくのがよいと考える。

おわりに

以上、本稿では、主にタスクとプロジェクトに焦点を当てて『私のキャリアプラン』の設計と特徴、および本教材で期待される効果、留意点について述べた。

本教材は、留学生だけを対象とした日本語授業はもちろん、留学生と日本人学生が共に学ぶ国際共修の授業でも扱うことで、より多様な視点からの議論と体験が可能となり、学生の知識やスキル、思考力の養成に寄与できると考える。こうしたキャリア形成支援のための教材作成・実践が今後も活発に行われていくために、本教材の理念やそれを実現させるための教材設計が参考になるのではないかと考える。そのためにも、今後は、本教材を用いた実践とその検証を様々な教育現場で行い、グローバル時代に活躍する留学生と日本人学生のキャリア形成支援を行うとともに、それを支える研究と実践の進展をさらに図っていきたい。

付記 本研究は、2019～2022年度科研費 JSPS「留学初年次から使用可能なキャリア形成支援教材の開発」(19K00732、研究代表者：菅長理恵)の研究成果の一部である。本稿は、第59回日本語教育方法研究会での発表をもとに、大幅に加筆修正を行った。本研究にご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 稲垣忠・菅原弘一 (2015)「第11章 魅力ある授業をつくる(3)～協同的な学びをデザインする～」稲垣忠・鈴木克明 編著『授業設計マニュアル Ver.2 -教師のためのインストラクショナルデザイン-』北大路書房, pp.121-134.
- 産学人材育成パートナーシップ グローバル人材育成委員会 (2010)「報告書～産学官でグローバル人材の育成を～」
<https://warp.da.ndl.go.jp/collections/info:ndljp/pid/3486530/www.meti.go.jp/press/20100423007/20100423007-3.pdf>
(2022年9月1日)
- 渋谷博子・菅長理恵・中井陽子 (2017)「キャリア形成支援に関する基礎調査-留学生のための教材開発に向けて-」
『東京外国語大学論集』94, pp.87-102. <http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/89305> (2022年9月1日)
- 渋谷博子・菅長理恵・中井陽子 (2018)「中上級日本語クラス「キャリアプランを考えよう!」における学習者の学び-先輩留学生の体験談を生かした教材の開発と実践-」『東京外国語大学論集』97, pp.262-284.
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/92841> (2022年9月1日)
- 出入国在留管理庁 (2021)「令和2年における留学生の日本企業等への就職状況について」
<https://www.moj.go.jp/isa/content/001358473.pdf> (2022年9月1日)
- 末松和子・秋庭裕子・米澤由香子編著 (2019)『国際共修:文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ』東信堂
- 菅長理恵・中井陽子 (2015)「理科系ベトナム人国費留学生のキャリア形成-グローバル人材に必要な資質-」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』41, pp.29-45.
<http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/81067/1/jlc041003.pdf> (2022年9月1日)
- 菅長理恵・中井陽子・渋谷博子・伊集院郁子 (2022)『エピソードとタスクから描く私のキャリアプラン』凡人社
- 鈴木敏恵 (2012)『課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法』教育出版
- 舘野泰一・中原淳編著 (2016)「社会人カード」『アクティブ トランジション 働くためのウォーミングアップ』三省堂, pp.64-65.
- 田中博之 (2002)「はじめに」「I 総合的な学習のカリキュラム開発」『講座 総合的な学習のカリキュラムデザイン(1) 総合的な学習のカリキュラムを創る』明治図書, pp.1-9, 17-45.
- 寅丸真澄・江森悦子・佐藤正則・重信三和子・松本明香・家根橋伸子 (2018)「留学生のキャリア意識とキャリア支援の「ずれ」を考える-日本語学校・短大・大学(首都圏・地方)の留学生の語りから」『言語文化教育研究』16, pp.240-248. https://www.jstage.jst.go.jp/article/gbkk/16/0/16_240/pdf/-char/ja (2022年9月1日)
- 寅丸真澄・中山由佳・齊藤眞美 (2019)「留学生のキャリア意識調査報告-日本語学習者のキャリア支援に向けて-」
『早稲田日本語教育実践研究』7, pp.23-30. <http://hdl.handle.net/2065/00062706> (2022年9月1日)
- 中井陽子 (2020)「話し合いの会話データ分析活動における学び-日本人学生と外国人留学生が参加する学部授業の分析-」『東京外国語大学論集』101, pp.73-93. <http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/95717> (2022年9月1日)
- 中井陽子 (2021)「キャリア形成と人間関係構築のための授業実践-2019年度中国赴日本国留学生予備教育における団長授業での試み-」劉桂萍(主編)、辺家勝(副主編)『日本語教育論集』第9号国際シンポジウム篇 中国赴日本国留学生予備学校日本語教育研究会, 東北師範大学出版社, pp.84-108.
- 中井陽子・菅長理恵・渋谷博子 (2019)「先輩留学生の体験談を読む活動における学び-キャリア形成支援をめざした教材作成と授業実践から-」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』45, pp.37-56.
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/92973> (2022年9月1日)
- 松村昌紀 (2012)『タスクを活用した英語授業のデザイン』大修館書店

文部科学省「新しい学習指導要領の主なポイント（平成14年度から実施）」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320944.htm（2022年9月1日）

Ellis, R. (2003) *Task-based language learning and teaching*. Oxford: Oxford University Press.

Nunan, D. (1989) *Designing Tasks for the Communicative Classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.

Samuda, V. & Bygate, M. (2008) *Tasks in second language learning*. Basingstoke: Palgrave Macmillan.

Van den Branden, K. (2006) *Task-based language education: From theory to practice*. Cambridge: Cambridge University Press.